



パタゴニアのダウン・ジャケットのバッフルの修理方法

パタゴニアのダウン・ジャケットのバッフルの修理に必要な手順を説明します。

作成者: Brittany McCrigler



はじめに

[video: <https://vimeo.com/57614685>]

ダウンジャケット内側の羽毛を固定しないと、羽毛がジャケットの下部に移動してしまい、上半身や肩が保温されない状態になってしまいます。これを防ぐ最も簡単な方法は、ジャケットの表地と裏地を縫い合わせて羽毛が移動しないようにすることです。このデザインにより、羽毛の移動の問題は解決できますが、縫い目と生地の変から湿気や冷気がジャケット内に侵入し、ダウンの保温性を低下させます。パタゴニアのジャケットの多くは、ダウンの移動を防ぐために内部バッフルを備えています。バッフルはジャケット内の柵のような役割を果たし、ダウンインサレーションを保持でき、内部と外部の両方の生地を貫通する縫い目がありません。このデザインは、複雑な構造であるものの、完成したジャケットの性能は大幅に向上します。この修理ガイドでは、ジャケットの裏地がない部分を修理する方法を紹介します。お持ちのジャケットに裏地が付いているかどうかかわからない場合、裏地付きのジャケットをお持ちの場合は、このガイドの作業を始める前に、[Patagpnia ダウンジャケット内部にアクセスする方法](#)をご覧ください。

交換部品やその他のサポートについては、[Patagonia Customer Service](#)までお問い合わせください。

ツール:

- [万能ハサミ](#) (1)
- [Sewing Pins](#) (1)
- [Sewing Machine](#) (1)
- [Iron](#) (1)
- [Tenacious Tape™](#) (1)
- [Seam Ripper](#) (1)
- [Measuring Tape](#) (1)

手順 1 — パタゴニアのダウン・ジャケットのバッフルの修理方法



- ダウンジャケットの穴を確認します。ダウンが穴から出るのを防ぐためにバッフル全体を修理しなければなりません。

手順 2



- 粘着性の補修テープを穴を覆う十分な大きさに切ります。

手順 3



- 補修テープを穴に貼ります。

手順 4



- リッパーを使って、修理が必要なバッフルの終わりの縫い目をほどこきます。ここでは一番近い縫い目は袖下です。
- 作業しやすいように縫い目は長めにほどこきます。

手順 5



- ジャケットを裏返します。
- バッフルの幅を測ります。ここでは5センチです。
- 2つのバッフルを修理するので、幅10センチ強のあて布が必要です。
- バッフルの縫い目に沿ってバッフルの長さを測ります。ここでは23センチですが、袖の修理なので2倍の長さの46センチのあて布を用意します。

手順 6



- あて布を用意します。修理箇所を確実に覆うよう各方向に 3 ~ 5 センチ余裕を持たせて布を裁断します。
- ① ここでは修理箇所がわかりやすいようにジャケットよりやや明るい色の生地を使用しています。
- 生地 of 長辺の端を折り返し、まっすぐにします。

手順 7



- 折り目にアイロンをかけます。

手順 8



- 折り返した縁を修理箇所の一番外側の縫い目沿いに配置します。
- 折り返した布が穴の開いたバッフルと継ぎ当て布の間にあることを確認します。
- バッフルの折り返した縁を縫い目に揃えてまち針でとめます。

手順 9



- まち針で留めた箇所をミシンで縫います。
- 新たなステッチが目立たず、また穴からダウンが出るのを防ぐために極細の針を使用します。
- もとのバッフルの縫い目上を縫います。折り返し部分の最も生地端に近い所を縫います。

⚠ 袖を修理するときは袖を塞いでしまわないよう、片側だけを縫っていることを確認してください。

- もとのバッフルの縫い目をゆっくりと丁寧に縫います。必要であれば折り返した生地端を揃え直してください。

手順 10



- 縫い目の端を覆っていたバイアステープを一緒に縫ってしまわないよう注意してください。
- 折り返し部分を注意深く縫います。
- 滑りやすい生地なのでゆっくり進めましょう。
- 縫い目の終わりにたどり着いたら糸がほどけないよう返し縫いをします。

手順 11



- ここでは合計 3 箇所の縫い目を縫っています。外側の生地端を縫い終わったので、真ん中の縫い目は飛ばし、反対側の外側の生地端の縫い目上に 2 つ目の折り返し部分を揃えてまち針でとめます。
- 2 つめの縫い目を縫います。

手順 12



- 縫い進めます。
- 2つめの画像は縫い終わった時点での見た目です。

手順 13



- もとのバッフルのステッチが見えるようにジャケットの裏返しを直します。
- バイアステープを一緒に縫ってしまわないよう注意してください。
- 縫い終わった2つの縫い目の中間にある縫い目にミシンの押さえ金を揃えます。

手順 14



- もとのバッフルの中央のステッチの上を直接縫います。

⚠ バイアステープを一緒に縫ってしまわないよう注意してください。

手順 15



- あて布の余分を切り取ります。

手順 16



❶ ここでは、袖の縫い目を揃え直す必要があります。

- バイアステープを一緒に縫ってしまわないよう注意してください。
- はじめと終わりに返し縫いをして、袖下の縫い目を縫い閉じます。

手順 17



- 袖の縫い目上にバイアステープを配置します。
- バイアステープが縫い目の両側を同等に覆うように調整します。

手順 18



- バイアステープを縫い合わせます。バイアステープのできるかぎり内側の生地端を縫います。
- はじめと終わりに返し縫いをします。

手順 19



- 縫い目をチェックします。すべてがきちんと配置されているのを確認し、糸を切ります。